

## 物理学会領域2運営会議 岩手大学

出席者：約30名

資料1 ishihara.ppt (石原先生)

資料2 mima.ppt (三間先生)

### 1. 領域2の歴史的背景と現状，執行部体制についての説明 (資料1, p. 2-5)

石原代表より，領域2の歴史的背景と現状，および執行部体制についての説明がなされた。

### 2. 領域2新役員の承認と役員会の新体制 (資料1, p. 6-9)

新役員候補として，

領域副代表 居田克巳(核融合科学研究所)，

役員 河村徹(東京工業大学)，古川勝(東京大学)，利根川昭(東海大学)

が紹介され，拍手で承認された。2008年11月以降の役員は下記の通りとなった。

領域代表	田中和夫	大阪大学
領域副代表	居田克巳	核融合科学研究所
領域前代表	石原修	横浜国立大学
役員(世話人)	草野完也	海洋研究開発機構
役員(世話人)	比村治彦	京都工芸繊維大学
役員(世話人)	渡辺智彦	核融合科学研究所
役員(世話人)	石井康友	日本原子力機構
役員(世話人)	吉村信次	核融合科学研究所
役員(世話人)	樋田美栄子	名古屋大学
役員(世話人)	河村徹	東京工業大学
役員(世話人)	古川勝	東京大学
役員(世話人)	利根川昭	東海大学

また，新体制での役員の役割分担が紹介された。

### 3. 領域2の活動報告

石原代表より，

- ・平成20年度核融合科学研究所共同研究「プラズマ物理に関連する科学研究諸分野の連携」  
(資料1, p. 102)
- ・最近の招待講演，チュートリアル講演(資料1, p. 11, 12)
- ・第63回年次大会(2008年3月)の企画や発表件数等(資料1 p. 13)
- ・2000.9以降の発表件数の推移(資料1 p. 15)
- ・2008年秋季大会のシンポジウム，チュートリアル講演，招待講演(資料1 p. 16-18)

が紹介された。チュートリアル講演は今後も継続していくことが了承された。

### 4. 若手奨励賞(資料1, p. 19)

石原代表より，第3回日本物理学会若手奨励賞の募集(学会誌6月号 p. 487)についてのアナウンスがなされた。領域2の締め切りは9月29日。

### 5. 3学会合同セッションの継続(資料1, p. 21-24)

石原代表より、物理学会領域2と地球電磁気・地球惑星圏学会及び日本天文学会の「プラズマ宇宙物理」合同セッションの過去3年間3回の発表件数が説明された。

今後について、

- ・「物理学会会長宛の継続に関する提案（2008年7月7日）」（資料1, p.22）が認められたこと。
- ・次回以降、
  - 第4回 2009年3月 日本物理学会第64回年会（立教大学）
  - 第5回 2010年5月 地球惑星科学連合大会（幕張メッセ）
  - 第6回 2011年9月 日本天文学会秋季年会（未定）が計画されていること。
- ・次回の第4回では、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会から参加者の登録料について、物理学会会員と同等の資格で参加できること。

が紹介された。

#### 6. 2009年春の年会（資料1, p.25,26）

8学会連携を背景とし、役員会より、プラズマ科学境界領域における共通の物理の議論を目的とするシンポジウム「現代プラズマ科学の最前線」が提案され（資料1 p.25,26）、了承された。他のシンポジウムの提案はなかった。会場から、

- ・航空宇宙の分野も加える方がよい。
- ・シンポジウム2つ分くらいの大きなシンポジウムにしてもよいのではないか。その場合、他のシンポジウムは無理なのではないか。

という意見があった。

シンポジウム、チュートリアル、招待講演、について10月までメール等で受け付ける旨のアナウンスがなされた。

#### 6. 共同利用・共同研究拠点化（資料2）

阪大レーザー研の三間先生より、大学に付置されている研究所・研究センターを学術研究の発展に資する「共同利用・共同研究拠点化」の説明があり、領域2へ「大阪大学レーザーエネルギー学研究センターの共同利用・共同研究拠点化に向けた要望書・意見書」が依頼された。

- ・今後、多くの研究所・研究センターから要望があった場合、不公平にならないように、領域2としてなんらかの方針が必要ではないか？

の意見があった。今後メーリングリスト等で議論していくこととなった。

以上  
比村治彦，澤田圭司

#### 備考

音声ファイル有り。ファイル名「領域2運営会議\_岩手大学2008秋」